

## ニュース & トピックス

### 「夏休み子ども向け公開講座」の開催

「夏休み子ども向け公開講座」は、本年度で8年目を迎えました。この公開講座は、佐倉市の「市民公開講座事業」の一環であり、本学が委嘱を受けて実施してきました。

今年度も昨年度と同様に「地域の子どもたちが有意義な夏休みを設計する上で活用できるもの」をコンセプトにしました。

その内容は、【国語】「読書感想文を書くために」【図画工作】「夏休みの課題（ポスターや風景画等）の製作」【音楽Ⅰ】「みんなで箏を弾いてみよう」【音楽Ⅱ】「手作り楽器を作ってあそぼう - 音あそびするものこの指と〜まれ」【理科】「楽しい理科実験」の5講座で構成し、製作活動や体験的学習を取り入れました。



国語



図画工作



音楽Ⅰ



音楽Ⅱ



理科

### 佐倉市・八街市の「通学合宿」へのボランティア参加



平成25年度は、佐倉市に12名（9・10月）、八街市に14名（6・9月）の学生ボランティアを派遣しました。

「佐倉市チャレンジ通学合宿」では、5泊6日の最後の夕飯時のお楽しみ会の進行を学生たちが任せられ、参加者同士の心の交流に大変効果的であったとの言葉をいただきました。

#### 学生の感想

期待と不安を抱えての参加でしたが、今後子どもたちと関わることになる自分自身に、多くの変容をもたらしてくれた良い機会でした



#### 通学合宿の目的

子ども：親元を離れ、異年齢集団で生活体験を行うことにより、自主性・協調性を高め、心豊かでたくましく生き抜く力を育む。

家庭：一定期間、子どもと離れて生活することで、日頃の親子関係を見直し、家庭の教育力向上を目指す。

地域：地域の方々や保護者が、共に子どもの生活体験活動にかかわることにより、地域の繋がりを深め、地域の教育力の更なる向上を目指す。

### 志津地区青少年育成住民会議「第18回トーク大会」への参加



平成26年2月15日（土）、大雪にもかかわらず小・中学校PTAを主体とした150名の参加者を迎え、志津コミュニティセンターで行われました。

まず、志津地区の一般的な4人家族を想定し、①親子とも忙し過ぎる、②比較される（不平等感）、③親が指示しすぎる（頭ごなしの指示）、④自分を見てくれない（プロセスよりも結果）などの問題点を含めたアフレコ形式の劇が演じられました。

その後、グループに分かれて、家族のやりとりの問題点を挙げ、次にそれらの問題点を解消するための手立てについて、話し合

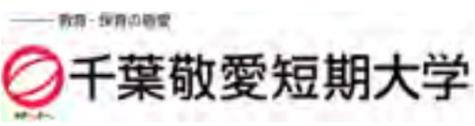
いが行われました。4月から小学校の教壇に立つ本学の4名の学生もグループ討論に参加し、保護者の方々からは学生に対し、温かい励ましと期待を寄せるお言葉もいただきました。

最後に、本学の鈴木健一専任講師が、通学合宿等の学生にとって有為な機会をいただいていることに感謝の言葉を申し上げ、「心が満たされる子どもを育む」ための言葉かけのタイミングや内容などを事例的に話しし、この会の益々のご発展を祈念して話を閉じました。



※ 総合子ども学研究所「実践・研究報告会」は台風の影響により中止となりました。

※ 紙面掲載の手袋人形「五つのメロンパン」「でんでん虫の悲しみ」「にんじん君とピーマンちゃん」「キャベツの中から」「ひな鳥4きょうだい」は、本学の太野雄子准教授による作品です。



千葉敬愛短期大学

# 総合子ども学研究所 ニュースレター 第2号

本研究所は、「子ども」を様々な視点から、学問的・実践的見地に基づいて研究し、本学の教育の充実発展を図ると共に、地域の教育・保育に寄与することを目的として設置されました。

発行日：2014年4月1日  
http://www.chibakeiai.ac.jp  
〒285-8567 千葉県佐倉市山王1-9  
TEL. 043-486-7111 (代表)

## 「現代子ども学公開講座」の開催

地域の皆様と、子どもについての学びを共有し、交流させていただき貴重な機会となることを願い、年に2回開催しています。

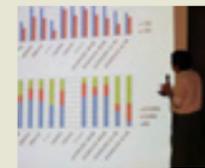
### 第8回 2013年5月21日（火）

#### 「環境の不都合な真実～すべての能力は環境である～」の裏側にあるもの

講師：安藤 寿康先生（慶應義塾大学 文学部 教授）

千葉県内の幼稚園や保育園の先生方、および地域の皆様方、約60名のご参加をいただき、本学1・2年生と教職員380名と一緒に安藤先生のお話を伺いました。

学力や性格、習慣などが、遺伝と環境にどの程度影響を受けているかを、自然科学や社会科学の一つのアプローチとして世界的に応用されている「双生児法」を用いてご説明いただきました。



#### 「行動遺伝学の3原則」

1. 行動にはあまねく遺伝の影響がある
2. 共有環境の影響がほとんどみられない
3. 個人差の多くの部分が非共有環境から成り立っている

### 第9回 2013年12月3日（火）

#### 「子ども虐待～家族への支援～」

講師：渡邊 直先生（千葉県中央児童相談所 首席児童福祉司兼調査課長）



暴力や暴言を伴うしつけのバッドサイクルから抜け出し、肯定的で具体的な表現を用いるしつけのグッドサイクルへと移行することの重要性について、渡邊先生にお話しいただきました。

非暴力のしつけを行うためには、「Calm（穏やかに）・Close（近づいて）・Quiet（静かに）」という環境（状況）を作ることが大切であるということを理解するために、参加者全員で、背中合わせで話すワークを行いました。



### 皆さまのご参加をお待ちしております！

※ お申し込みは、本学ホームページより、または上記代表電話にご連絡ください。

※ 本学ホームページの総合子ども学研究所内に「現代子ども学公開講座（第1～5回）」講演集録第1号（2012年3月刊行：PDFファイル）を掲載しております。是非ご覧くださいませ。

### 第10回公開講座

#### 「科学する心と脳の発達～子どもの学びと育ちを支える大人ができること～」

日時：2014年5月13日（火）16:30～18:00

講師：小泉 英明先生（株式会社日立製作所 役員待遇フェロー）

### 第11回公開講座

#### 「保育の中の遊び論～今、遊びの保育に求められるもの～」

日時：2014年12月2日（火）16:30～18:00

講師：加用 文男先生（京都教育大学教授）





## 「佐倉市コミュニティカレッジさくら」への運営協力

コミュニティカレッジさくらは、自らの居住地域での人と人のつながりを大切に、地域で共に生活し、見守り、支え合い、日常生活で声を掛け合いながら、地域づくり（防災・防犯、少子高齢化、まちの活性化等のまちづくり）に参加いただける市民の学習の場として開設されました。

市民協働の取り組みの一つとして、学習者一人ひとりの持つ、技術・知識・能力を高め、次世代に継承していただくだけでなく、地域リーダーとして多種多様な取り組みを、佐倉の様々な地域において実践いただくことにより、社会の人と人との絆を高め、お互いを支え合う地域社会の形成を目指します。

- 入学資格**
- (1) 佐倉市内に在住、在勤されている18歳以上の方
  - (2) 2年間、継続して通学できる方

- 学習課程**
- (1) 1年次「人間学」（基礎講座）  
地域活動を行うために必要な折衝能力を培うとともに、地域課題の発掘方法や、私たちを取り巻く様々な社会環境について広く学びます。
  - (2) 2年次「地域学」（実践講座）  
地域で主体的に課題解決に向けた実践活動を行うため、地域の各種資源（人材等）を活かした、様々な地域活動例、具体的な実践手法など、共に生き、支え合う地域づくりについて学びます。

**学習会場**  
佐倉市立千代田小学校 学習室  
千葉県佐倉市吉見 553 番地

**お問い合わせ:**  
● 佐倉市教育委員会 社会教育課  
Tel: 043-484-6189  
● 佐倉市立白井公民館  
Tel: 043-461-6221



### カリキュラム紹介

#### 1年次「人間学」本学担当講義

6/22	伊藤 勝博	記念講演「地域を生かし、地域で生きる」
6/29	吉村 真理子	よりよく「聴く」ためには～傾聴の技術～
7/13	大野 雄子	よりよく「聴く」ことへの「責任」～守秘義務と個人情報の扱い～ 素直な自己表現～アサーション・トレーニング～
7/27	吉村 真理子	よりよいコミュニケーションとは (1) グループエンカウンター体験、(2) コラージュで自己表現
9/14	桑原 逸美	異年齢社会の構造と課題 (1) 乳幼児を取り巻く社会環境
	鈴木 健一	異年齢社会の構造と課題 (2) 小・中学生が抱えているもの
9/28	山中 護	異年齢社会の構造と課題 (3) 学校からみえる地域社会の現状と課題
10/12	松本 峰雄	身近な人権～ひとを人として認める地域とは?～
10/19	吉村 真理子	心地よいコミュニケーション (1) DESC 法体験、(2) リフレーミング法体験
11/9	藤 京子	家庭・家族と地域の社会的役割 (1) 家族形態の変遷～明治時代から現代まで～ (2) 子どもに関する社会的問題～家族の抱える問題虐待～
11/16	新田 司	家庭・家族と地域の社会的役割 (3) 「こうのとりのゆりかご」の事例を通して考える
3/15	伊藤 勝博	「地域が元気になる」実践方策～班ごとの研究課題の経過発表～

[用語解説]  
 \*アサーション: お互いを尊重しながら自己表現をするコミュニケーション技法のひとつ  
 \*グループエンカウンター: 出会いのためのグループ活動  
 \*コラージュ: 切り貼り絵  
 \*DESC 法: 対話のための土俵作り (Describe: 描写, Explain: 説明, Specify: 提案, Choose: 選択の頭文字から)  
 \*リフレーミング法: 物事の見方の枠組みを変える

#### コーディネーター、事務局等による活動内容

6/22	1年次コミュニティカレッジについて (クラス班編成、自己紹介)	
9/28	異年齢社会の構造と課題 (4) 学校の現状と子どもたちの学び	
10/12	研究事例「地域が元気になる」実践方策～班の研究課題を見つけ出そう～	
11/16	実践・現場から 地域を元気にする実践コミュニティビジネス NPO 活動 等	
12/14	実践・現場から 福祉ボランティア、まちづくり協議会等の地域活動 コミュニティカレッジの目指すもの	
1/18	バス見学会 NPO 小野川と佐原の町並みを考える会、 佐原おかみさん会活動状況 バス見学会 佐原の町並み散策	
2/8	「地域が元気になる」実践方策 研究発表準備	
(適宜)	各班に分かれての自主学習 (4回実施)	

\*「コーディネーター」は、カレッジ生の活動における支援・助言者です。 佐原の町並み散策

## 千葉敬愛短期大学附属幼稚園との共同研究



### 大人のおそびへのまなざし～子どものおそびと大人のかかわり～

本研究では、幼稚園・保育所と家庭との連続性を重視した環境構成を可能とするための基礎調査として、子どもたちにとって重要な人的環境である保護者に、自らの遊び体験および子どもとの遊び体験を尋ねるアンケート他を実施しました。

アンケートは、2013年7月、千葉敬愛短期大学附属幼稚園の保護者539名にご協力いただいで実施し、265部(回収率: 49.2%)の回答を得ました。



#### 保護者が小学校入学以前によくおこなった遊び

遊び	%
ままごと	19.6
お絵かき(ぬりえ)	19.2
お人形さんごっこ	9.2
かくれんぼ	8.0
折り紙	5.6
虫取り	5.2
その他	33.2

#### 子どもと一緒に遊ぶ遊び(複数回答)

遊び	%
お絵かき(ぬりえ)	35.8
折り紙	23.8
サッカー(ボール蹴りなど)	20.0
ままごと遊び	18.9
あやとり	14.0
お人形さんごっこ	12.8
追いかけ鬼	12.8
かくれんぼ	12.5
携帯用ゲーム機での遊び	10.6

今回は、分析結果の一部をご紹介します。  
 まず、保護者が小学校入学前に行っていた遊びに関しては、家庭用ゲーム機での遊びが、「その他」の中の1.2%程度しかなく、当時の子どもたちの環境や興味・関心が反映されている資料として興味深い結果となりました。  
 一方、子どもと一緒に遊ぶ遊びに関しては、主に室内で行う遊びが上位になりました。「子どもの頃から知っている」が8割強と圧倒的に多く、子どもと一緒に遊ぶ遊びは、親自身が経験した遊びが反映していることが予想されます。

引き続き、下記の幼稚園・保育所の保護者の方々にもアンケートへのご協力をいただき、現在、様々な視点から分析を進めています。ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

白井幼稚園(佐倉市)、四街道旭幼稚園(四街道市)、大竹保育園(大網白里町)、聖母保育園・銚子保育園・銚子中央保育園・外川保育園(銚子市)、いすみ市立中根保育所(いすみ市)、館山市立中央保育園(館山市)

## 佐倉市立美術館との連携



佐倉市立美術館

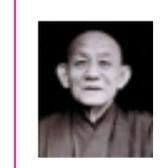
今年度、美術館・学校連携事業の一環として、同館が管理・運営し、佐倉市教育センターが所蔵する芝千秋の作品(教材用)を実際の教育活動に活用する事業についての協力依頼があり、本学の「文章表現法」内の鑑賞文の学習で、同氏の絵画作品を使わせていただきました。

作品に直接触れることができたことで、驚きや新たな発見が生まれ、学生は興味を抱いて真剣に鑑賞し、文章化に意欲的に取り組んでいました。全て100年も前の作品ですが、現代の子どもたちにも通じるような題材で繊細に美しく描かれている絵であったこと、一人一人が入った作品を手にとって間近に鑑賞できたことが、効果的な学習につながったと考えられます。

今回の鑑賞文の指導に関わり、芝千秋の作品をお貸しくださった佐倉市立美術館と、作品の選定等でご助言いただき、いろいろと取り計らってくださった同館学芸員の木邨かおり様に感謝申し上げます。



(佐倉市教育センター所蔵)



芝千秋 (1877年～1956年)  
 京都に生まれ、日本画を学んでいたが、新しい日本画を目指し、浅井忠に洋画を学んだ。晩年は装飾的な画風に移行。また、京友禅染の老舗「千總」で下絵を制作するなど技工として勤務した。